



令和8年4月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

## アントクメの移植事業スタート

これまで伊豆半島ではカジメ藻場が広範囲に認められていましたが、平成29年9月から昨年4月まで続いた黒潮大蛇行による高水温の影響でほぼ認められなくなり、それらを食物とするアワビ等の貝類の漁獲量も減少しています。

これらの対策を講じるため、当分場で行った研究の結果、アントクメという海藻がカジメに比べて生長が早く、アワビの食物としても有効であることが分かりました。また、過去に伊豆半島でカジメが衰退した時にもアントクメが生育していたことが報告されています。このようなことから、対策の1つとしてアントクメを移植する事業を進めることとなりました。

アントクメ（平均全長約4cm）の移植は、2月9日に西伊豆町の仁科で、2月10日に下田市の白浜で県の委託により行われました。

当分場では移植後の観察を実施しており、3月6日に仁科で観察を行った結果、移植したアントクメの生残を確認し、大きいもので全長20cm程度に生長していることが分かりました。

今後これらのアントクメが繁茂してくれることを期待しています。



生残、生長したアントクメ

## テングサ作柄調査が始まりました

令和8年の漁期に向けたテングサ作柄調査が3月24日の土肥地区から始まりました。今後、4月下旬までの期間、伊豆地域の12地区の約30地点で潜水調査を実施する予定です。調査では、目視で漁場周辺のテングサの状況を観察するとともに、1㎡の範囲のテングサを採取して着生状況を把握します。

既に調査を終了した土肥地区では、昨年と比べ、着生量の増加が認められる漁場もありました。今後、他の地区でも調査を実施し、5月中旬頃に令和8年のテングサ作柄予測をお知らせする予定です。



←テングサ  
漁場

## 市民講座で磯焼け対策の取組を紹介

3月4日に下田市教育委員会が開催した水産・海洋学講座（第2回）で会場職員が「藻食性魚類の採捕支援と磯焼け対策研究」について講演しました。

講演では、「磯焼け」状態にある伊豆半島沿岸域の海藻群落復活を目指し、海藻を食べてしまう魚「ブダイ」対策として、ブダイに食べられにくい海藻の探索や、その移植方法の検討、ブダイの単価高く出荷し、採捕活動の経費を確保することで活動継続を目指す取組について紹介しました。

講演内容は地元テレビ2局によって放映され、4月頃、下田市教育委員会生涯学習課のYou Tubeチャンネルから公開される予定です。



**4月の予定** ●潜水調査（テングサ作柄調査ほか） ●キンメダイ親魚採捕調査 ●星陵中学見学対応（17日）

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：[suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp](mailto:suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp) ホームページ：<https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。